



Küschall® Champion 2.0

ja 手動車椅子
取扱説明書

本マニュアルは、製品の使用者に提供されなければなりません。

本製品をご使用になる前に、必ず本書をお読みにになり、今後の参考のために保管してください。

Küschall®
UNLIMIT YOUR WORLD

目次

1概要	3	6.5階段や段差の昇降	15
1.1はじめに	3	6.6階段昇降	15
1.2納品時の確認	3	6.7斜面や坂道の昇り降り	15
1.3本書で使用されている記号	3	6.8座ったときの安定性とバランス	16
1.3.1その他の記号	3	6.9利用者が乗っていない場合の手動車椅子の輸送	16
1.4保証について	3	7輸送 (移動)	17
1.5コンプライアンス	3	7.1安全性について	17
1.5.1製品固有の基準	3	7.2バックレストの折りたたみ方と広げ方	17
1.6耐用年数	3	7.3後輪の取り外しと取り付け	17
1.7責任制限	3	8点検整備	17
2安全にお使いいただくために	4	8.1安全性について	17
2.1安全性について	4	8.2点検整備作業	17
2.1.1カーボンラインモデル固有の安全上の注意	5	8.3清掃と除菌	19
2.2安全装置	6	8.3.1安全性全般について	19
2.3製品のラベルと記号	6	8.3.2清掃の頻度	19
3製品の概要	6	8.3.3清掃	19
3.1製品の説明	6	8.3.4除菌	19
3.2用途	6	9トラブルシューティング	20
3.3車椅子の主な部品	7	9.1安全性について	20
3.4パーキングブレーキ	7	9.2故障の確認と修理	20
3.5バックレスト	8	10車椅子の処分 / 回収	21
3.5.1標準バックレストカバー	8	10.1保管	21
3.5.2バックレストカバーの張り調節	8	10.2再調整	21
3.5.3バックレストの高さ / バックレストの角度	8	10.3廃棄	21
3.5.4バックレスト用安定化バー	9	11技術資料	21
3.5.5ハンドグリップ	9	11.1寸法および重量	21
3.5.6折り畳み式ハンドグリップ	9	11.2タイヤ	23
3.5.7高さ調節可能なハンドグリップ	9	11.3材質	23
3.6アームレストとサイドの部品	9	11.4環境状態	23
3.6.1パイプ状アームレスト、ノンロック式、高さ調節可能、取り外し可能、旋回式	9		
3.6.2サイドレスト、無段階式高さ調節可能、ノンロック式	10		
3.6.3泥よけ	10		
3.6.4洋服ガード	10		
3.7カーフストラップ	10		
3.8シートクッション	11		
4オプション	11		
4.1転倒防止装置	11		
4.2姿勢ベルト	11		
4.3配置ベルト使用時のアタッチメント	12		
4.4移動用車輪	12		
4.5杖ホルダー	13		
4.6ティップパーエイド	13		
4.7サスペンション	13		
4.8バンプ照明	13		
5セットアップ	13		
5.1安全性について	13		
6車椅子の使い方	13		
6.1安全性について	13		
6.2使用中にブレーキをかける	14		
6.3車椅子の乗り降り	14		
6.4車椅子の運転と方向転換	14		

1概要

1.1はじめに

本取扱説明書には、本製品の取り扱いに関する重要な情報が記載されています。本製品を安全に使用するため、本取扱説明書をよく読み、安全上の注意に従ってください。

この製品は、本取扱説明書を読んで理解した場合にのみ使用するようにしてください。お客様の病状に詳しい医療専門家に追加のアドバイスを求め、正しい使用および必要な調整に関する質問については、医療専門家に相談してください。

本取扱説明書には、お使いの製品には該当しない内容が含まれている場合があります。本取扱説明書は、発行時点で提供されているすべてのモデルに適用されます。特に記載がない限り、本取扱説明書の各項目はすべての製品モデルに適用されます。

国内で使用可能なモデル及び設定は、各国固有の販売用文書でご覧いただけます。Invacareは、予告なく製品の仕様を変更する権利を留保します。

本書をお読みになる前に、最新版であることをご確認ください。最新版のPDFは、Invacareのウェブサイトから入手できます。

印刷版のドキュメントの文字が小さくて読みにくい場合は、ウェブサイトからPDF版をダウンロードすることをお勧めします。PDFは、画面上で拡大して文字を読みやすくすることができます。

旧バージョンの製品については、本マニュアルの最新版に記載されていない場合があります。サポートが必要な場合は、Invacareまでご連絡ください。

製品の安全に関する通知や製品のリコールなど、製品の詳細についてはInvacareの代理店にお問い合わせください。住所は本書の最後に記載していますのでご確認ください。

本製品に関する重大な事故が発生した場合は、製造業者およびお住まいの国の所轄官庁に報告してください。

1.2納品時の確認

荷物が破損していた場合は、速やかに運送会社に連絡してください。運送会社が商品を確認し、問題が解決するまで、梱包材も一緒に保存してください。

1.3本書で使用されている記号

本書では、怪我や物的損害の原因となる危険な状況や使い方について警告表示ラベル/マークで示しています。この文書はグレースケールで印刷されています。

参考までに、安全メッセージには、ANSI Z535.6に従って、危険(赤)、警告(オレンジ)、注意(黄色)、および注記(青)の色分けがあります。以下に示す警告文の定義をご確認ください。



警告

回避されなければ重傷または死亡を引き起こすおそれのある危険な状況を示しています。



注意

回避されなければ軽傷またはかすり傷を引き起こすおそれのある危険な状況を示しています。



警告!

回避されなければ物的損害の原因となる場合がある危険な状態を示しています。



ヒントと推奨事項

役に立つヒントや推奨事項、および効果的で問題のない使用法に関する情報が記載されています。

1.3.1その他の記号

(すべてのマニュアルに適用されるわけではありません)



英国責任者

商品が英国で製造されていないかどうかを示します。



Triman

リサイクルと分別のルールを示します(フランスにのみ関連)。

1.4保証について

弊社は、各国における弊社の一般取引条件に従って、製品のメーカー保証を提供します。

保証に関する申し立ては、製品を購入したご本人からプロバイダーを通してのみ行うことができます。

1.5コンプライアンス

企業運営において品質を重要視し、ISO 13485の規定に準拠しています。

本製品は、医療機器規制 2017/745 クラスIに準拠したCEマークを取得しています。

本製品には、2002年版英国医療機器規制 パートII(修正版) クラスIに準拠したUKCAマークが付いています。

当社は、企業が与える地域的および世界的な環境への影響を最小限に抑えるよう継続的に取り組んでいます。

弊社はREACHに準拠する素材と構成部品のみを使用しています。

弊社は、環境に関する現行法 WEEE および RoHS 指令に準拠しています。

1.5.1製品固有の基準

車椅子はEN 12183に従ってテストされています。これには可燃性の試験も含まれます。

地域の基準や規制の詳細については、お近くのInvacareの担当者までお問い合わせください。住所は本書の最後に記載していますのでご確認ください。

1.6耐用年数

本マニュアルに記載されている安全に関する注意事項、点検整備の間隔、および正しい使用法に従って日常的に使用した場合、本製品の耐用年数は5年間と予測されます。実際の耐用年数は、どの程度の頻度と強度で使用したかによって異なる可能性があります。

1.7責任制限

Invacareは、以下の各項に起因する損傷については責任を負いません。

- 取扱説明書の指示に従わない場合
- 誤った使用。
- 通常の摩耗。

- ・購入者または第三者による誤った組み立てまたは設置。
- ・無許可の改造、組み合わせ、および / または不適切な交換部品の使用。

2安全にお使いいただくために

2.1安全性について

このセクションには、車椅子の使用者および介助者の保護、ならびに安全・安心な車椅子の使用に関する重要な安全性情報が記載されています。



警告 重傷または損傷の危険性

本製品の使用を誤ると、怪我または損傷を起こすおそれがあります。

- － 警告、注意および指示を理解できない場合は、本機器の使用を試みる前に医療従事者またはプロバイダーにお問い合わせください。
- － 上記手順の他、取扱説明書、サービスマニュアルまたは本製品やオプション部品に付属する指示書などの手順資材を最初にしっかり読んで理解することなく、本製品や利用できるオプション部品を使用しないでください。



警告 死亡または重傷の危険性

火災の場合、火元や煙の元から逃げることができない車椅子の乗員は死亡または重篤な怪我の一定のリスクがあります。火がついたマッチ、ライターやたばこは車椅子周辺や布に発火する原因となる可能性があります。

- － 車椅子を直火や可燃物の近くで使用したり保管することを避けてください。
- － 車椅子を使用中に喫煙をしないでください。



警告 事故および重傷の危険性

車椅子が適切に調整されていないと、重傷を伴う事故が発生するおそれがあります。

- － 車椅子のプロバイダーに連絡して、資格のある技師に必要な調整を行ってもらってください。



Invacare は、有資格技士が本製品に精通し、本マニュアルに記載された手順を理解して従うための十分な技術知識を持ち、適切な工具を備えていることを前提としています。



警告 転倒の危険性

バックレストの位置と比較した車椅子の後輪軸の縦方向の位置は、その安定性に影響を与える可能性があります。

- － 後輪の車軸を前方へ移動すると、車椅子の安定性が低下し、後方へ転倒する危険性が高まります。ただし、ハンドリムを握りやすくなり、小回りが利くため、操作性は向上します。
- － 逆に、後輪軸を後方に動かすと、車椅子はより安定し、傾きにくなりますが、操作性は低下します。
- － 使用者の能力や安全性の限界に応じて、転倒防止装置を取り付けることで、安定性の低下を補うことができます。



警告 傾斜の危険性

後輪軸の位置と車椅子のバックレストの角度は、車椅子に座っているときの安定性に影響を与える可能性のある2つの重要な調節要素です。

- － 後輪 / 前輪の位置の変更および / またはアングルフォークの調整は、医療従事者による評価を受けた後に、有資格の技術者のみが行ってください。



警告 環境状態に適さない運転スタイルに起因する危険性

濡れた路面、砂利道、起伏のある路面では横滑りする危険性があります。

- － 天候、路面、個人の技能などの状態に合わせて常に速度と運転スタイルを調節してください。



警告 怪我の危険性

衝突した場合、車椅子からはみ出している身体の一部(足や手など)を負傷するおそれがあります。

- － ブレーキをかけずに衝突することのないようにしてください。
- － 対象物に真正面から乗り入れないようにしてください。
- － 狭い通路では慎重に運転してください。



警告 車椅子のコントロール不能状態による危険性

スピードを出すと車椅子をコントロールできなくなり、転倒することがあります。

- － その場の状態に合わせて常に運転速度を調節してください。
- － 衝突全般は回避してください。



警告 事故の危険性

安全装置(ブレーキや転倒防止装置など)が正しく調整されていない、または正常に作動しないと、事故が発生するおそれがあります。

- － 車椅子を使う前に必ず安全装置が動作しているかご確認ください。また、定期的に資格を持つ技士または担当のプロバイダーが点検するようにしてください。



注意 怪我の危険性

- － 床ずれまたは皮膚の怪我が発生した場合は、車椅子の布地と直接触れないよう、傷口を保護してください。医学的な指示については医療従事者に相談してください。

**注意
怪我の危険性**

手動車椅子の使用により、肩痛を起こす可能性があります。以下に、この影響を減らす推奨事項を示します。

- 後輪をさらに前方に移動させて、腕が解剖学的な範囲内で動作できるようにしてください。
- 障害のある人が許容できるよう、使用者が人間工学的な座席位置で座れることを確認してください。

**注意
火傷の危険性**

外部熱源にさらされた場合、車椅子の部品が高温になることがあります。

- 使用前に車椅子を日差しの強い場所に置かないでください。
- 使用前に、肌に触れるすべての部品の温度を確認してください。

**注意
指を挟む危険性**

車椅子の可動部には、指や腕などの体が挟まる危険が常に存在します。

- 後輪の取り外し可能な車軸、折りたたみ式バックレスト、転倒防止装置などの可動部の機構を作動または解除するときは、十分注意してください。

**注意
転倒の危険性**

追加の荷重(バックパックまたは同様のもの)を車椅子のバックポストにぶら下げると、車椅子の後方安定性に影響を与える可能性があります。

- Invacareは、バックポストに追加の荷重をかけて使用する場合、転倒防止装置(オプション)の使用を強く推奨します。

**注意
怪我の危険性**

オリジナルではない部品や不正な部品を使うと製品の機能および安全性が損なわれることがあります。

- 使用中の製品にはオリジナル以外の部品を使わないでください。
- ご利用可能なオプションは地域によって異なりますので、お住いの地域のInvacareカタログまたはウェブサイトをご覧になるか、Invacare担当者までご連絡ください。住所は本書の最後に記載していますのでご確認ください。

**警告!**

本製品と他の製品を併用するときは、組み合わせに関して両製品の制限事項が適用されます。例えば、併用する片方の製品の使用者最大体重が、より軽い場合があります。

- Invacareによって許可されている組み合わせ限定で使用してください。詳しくは、Invacareの代理店までご連絡ください。
- ご使用の前に、それぞれの製品ユーザーマニュアルを読み、制限事項を確認してください。安全に使用するには、両方のユーザーマニュアルに記載されている情報、指示、および推奨事項に全面的に従う必要があります。

**警告!**

安全上の理由から、車椅子の操作は、どのような状況でも(道路交通状況などを含めて)車椅子と車椅子に取り付けられているアドオンを安全に動かせる身体的かつ精神的な能力を備え、アドオンが機能不全に陥ったりシャットダウンしたりした場合は、車椅子にブレーキをかけて安全に停止させることができる人のみが行ってください。用途に反する使い方をすると、怪我をする危険性があります。スピードを出すと車椅子をコントロールできなくなり、転倒することがあります。

- 慎重に運転してください。
- 天候、路面、個人の技能などの状態に合わせて常に速度と運転スタイルを変えてください。
- 衝突しないようにしてください。

車椅子を動かすためのサポートまたは代用となるアドオンは、車椅子の構造に負担をかけます。

- アドオンの使用後は毎回、フレームの亀裂またはボルトやナット等の緩みがないか確認してください。
- 車椅子の構造に劣化の兆候が見られる場合は、直ちに車椅子の使用を中止し、資格のある整備士に連絡してください。

2.1.1カーボンラインモデル固有の安全上の注意**警告
破損の危険性
怪我の危険性**

- 車椅子フレームを構成するカーボンチューブには、いかなる後付け推進装置も取り付けないでください。
- カーボンチューブには、絶対に穴を開けないでください。

**注意
損傷の危険性**

車椅子のカーボンチューブが劣化または損傷するおそれがあります。次の事項を強く推奨します。

- カーボンチューブに取り付けた物品(ボトルホルダー、携帯電話ホルダーなど)を締め付けすぎないでください。
- カーボンと金属部品が接触しないようにしてください。これら2つの材料の間には、柔らかい素材(ゴムやシリコンなど)の使用を検討してください。

2.2安全装置



警告
事故の危険性
安全装置が正しく装着されていなかったり(ブレーキや転倒防止装置が)動作しなくなったりすると、事故が起きることがあります。

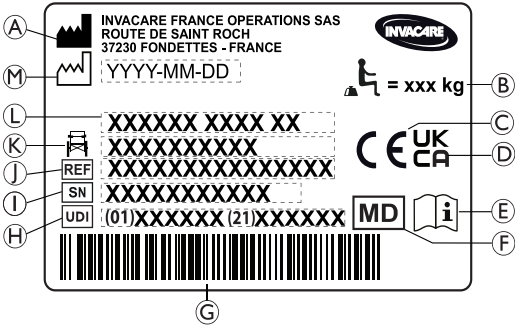
- 車椅子を使う前に必ず安全装置が動作しているかご確認ください。また、定期的に資格を持つ技師が点検するようにしてください。

安全装置の機能については、3.1 製品の説明、6ページに詳しく説明されています

2.3製品のラベルと記号

識別ラベル

車椅子のフレームに貼られた識別ラベルには次の情報が記載されています。



- ①製造者の名称及び住所
- ②車椅子の最大荷重
- ③欧州適合マーク
- ④英国適合マーク
- ⑤取扱説明書をお読みください
- ⑥医療機器
- ⑦UDIバーコード
- ⑧固有デバイス識別子、バーコード付き
- ⑨製造番号
- ⑩参照番号
- ⑪シート幅
- ⑫製品名
- ⑬製造年月日

	車椅子の最大荷重、または追加荷重がない場合の最大乗員質量。
	取扱説明書をお読みください。
	回避されなければ重傷または死亡を引き起こすおそれのある危険な状況を示しています。

ロックできないサイドの部品の警告ラベル



ロックできないサイドの部品を掴んで車椅子を引き上げないでください。

姿勢ベルト情報ラベル



ロックできないサイドの部品を掴んで車椅子を引き上げないでください。

リクライニング機構付きバックレスト情報ラベル



レバー(2)を操作する前に、背部支持管(1)を押します。これは、オートロックされたセキュリティシステムを解除するものです。バックレスト杖の上部(右側)に貼付するラベルです。

スナップフックの記号

構成によっては、一部の車椅子では電動車椅子でシートとして使用している場合がありますが、そうでない場合もあります。



人を乗せた車椅子を車両で移動する場合に、拘束システムのストラップを取り付ける位置。この記号は、輸送キットのオプションが注文されたときに車椅子に貼り付けられます。



警告
重傷または死亡の危険性
構成によっては、一部の車椅子では電動車椅子でシートとして使用している場合がありますが、そうでない場合もあります。

- 以下においては、自動車座席に車椅子を使用しないでください。

3製品の概要

3.1製品の説明

Küschall K-シリーズは、折り畳み式バックレスト付きのフレームが強固なアクティブ車椅子です。



警告!
車椅子はそれぞれ注文仕様に従って個別に製造および設定されています。仕様設定は、使用者の要件と健康状態に応じて、医療専門家 / 臨床医によって実行されなければなりません。

- 車椅子の設定を調節するには、医療従事者までご相談ください。
- 調節はいずれの場合も、資格を持つ技士が行わなければなりません。

3.2用途

この車椅子は屋内外の平らな面およびアクセス可能な地表面で使用できます。

車椅子の用途は、座ることしかできない人々が、ほぼいつも自ら運転して車椅子で移動できるようにすることです。

この車椅子は、身体を酷使したり、激しく動き回ったりする活動には使用できません。スポーツなどは(日常の)用途には含まれません。

対象となる使用者

この車椅子は、12歳以上の人（青年および成人）向けです。車椅子に座る人の体重は、「技術データ」のセクションおよび識別ラベルに記載されている使用者の最高体重を超えないようにしてください。

車椅子は、車椅子に座る人と介助者またはそのどちらかが使用することを意図しています。使用者は、身体的および精神的側面から車椅子を安全に使用（運転、方向転換、ブレーキなど）できなければなりません。

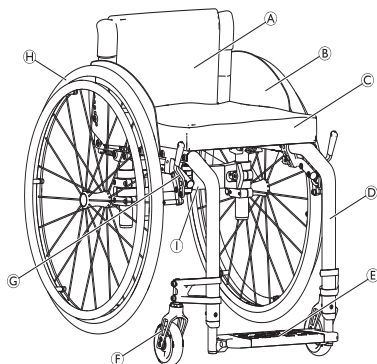
適応

- 下肢の構造的および機能的な障害、またはそのどちらかに起因する完全な運動障害のある人への使用は考慮可。
- 車椅子の運転に十分な力と握る機能が腕と手にあること。

禁忌

目的通りに使用した場合、車椅子に既知の禁忌はありません。

3.3 車椅子の主な部品



①	バックレスト
②	洋服ガード
③	クッション付き座シート
④	フレーム
⑤	フットレスト
⑥	キャスター車輪付きキャスターフォーク
⑦	パーキングブレーキ
⑧	ハンドリムおよびクイックリリース車軸付き後輪
⑨	折り畳み機構



車椅子はそれぞれ注文仕様に従って個別に製造されているため、車椅子の設備が図と異なる場合があります。

3.4 パーキングブレーキ

パーキングブレーキは、車椅子の静止時に走行しないよう固定するために使用します。



警告 急ブレーキによる転倒の危険性

移動中にパーキングブレーキをかけると、移動方向が制御不能になり、車椅子が突然停止し、衝突や転倒の原因となることがあります

- 移動中のパーキングブレーキの使用は絶対におやめください。



警告 車椅子のコントロール不能状態による危険性

- パーキングブレーキは同時に操作しなければいけません。
- パーキングブレーキは車椅子を徐行するためには使用しないでください。
- サポートや移動のためにパーキングブレーキに寄りかからないでください。



警告 転倒の危険性

- タイヤの空気が不足していると、パーキングブレーキが正しく動作しません。タイヤの空気圧が適正であることを確認してください（11.2 タイヤ、23ページを参照）。



注意 挟み込みまたは損傷の危険性

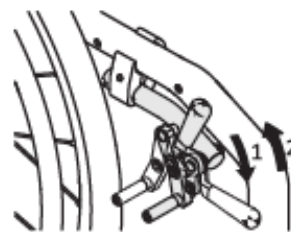
リアホイールまたはアームレストのフロントソケットとパーキングブレーキの間には、非常に小さな隙間があり、指を挟む危険があります。

- ブレーキを使用するときは指を可動部品から離し、手は常にブレーキレバーを握るようにしてください。



ブレーキシューと車輪の間の距離は調整可能です。調節は資格を持つ技士が行わなければなりません。

標準ブレーキ

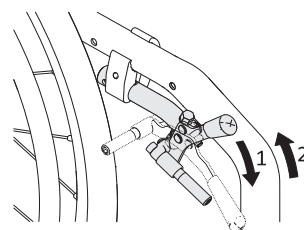


1. ブレーキをかけるには、手のひらでブレーキレバーをできるだけ前方に押します。
2. ブレーキを解除するには、薬指、小指でブレーキレバーを後方に引きます。



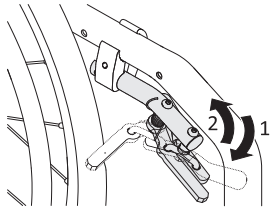
ハンドグリップのレバーを折り返して、移動を容易にします。そのためには、レバーを引き上げ、後ろに折りたたみます。

パフォーマンスブレーキ



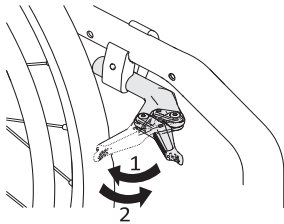
1. ブレーキをかけるには、手のひらでブレーキレバーをできるだけ前方に押します。
2. ブレーキを解除するには、薬指、小指でブレーキレバーを後方に引きます。

アクティブブレーキ



1. ブレーキをかけるには、膝の横または膝の間でブレーキレバーをできるだけ前方に引きます。
2. ブレーキを解除するには、膝の横または膝の間でブレーキレバーを後方に押します。

ライトアクティブブレーキ



注意

挟み込みまたは損傷の危険性

ブレーキをかけたり外したりするときは、ブレーキ機構を手全体で握らないでください。

1. ブレーキをかけるには、手のひらでブレーキレバーをタイヤに対してできるだけ後側に引きます。
2. ブレーキを解除するには、手の端でブレーキレバーを前方に押します。



ロック / ロック解除の操作の固さは、お客様のニーズに合わせて調節できます。この調節は、資格を持つ技士が行う必要があります。

3.5 バックレスト



警告

介助者のけが怪我や製品への損傷の危険性

体重の重い使用者を乗せた状態で車椅子を傾斜させると、介助者の腰や車椅子を損傷する可能性があります。

- 傾斜操作を行う前に、体重の重い使用者を乗せた車椅子を安全に操作できることを確認してください。

3.5.1 標準バックレストカバー



標準バックレストカバーは、すべてのバックレストタイプで利用できます。これらのカバーは調節できません。



警告

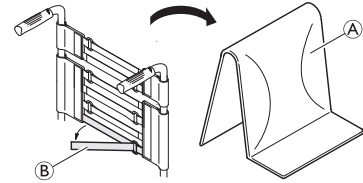
転倒の危険性

標準バックレストカバーがたるむと、車椅子の転倒ポイントが悪い方向に変わります。

- たるんだ標準バックレストカバーは、資格を持つ技士が交換する必要があります。

標準バックレストカバーのほかに、張りを調節できるバックレストカバーもご利用いただけます。

3.5.2 バックレストカバーの張り調節



1. バックレストクッション①を取り外します。
2. バックレストカバー後方のフック・ループ式のストラップ②を引っ張って緩めます。
3. バンドを必要に応じて締めるか緩め、再度装着します。



警告

転倒の危険性

バンドを非常に緩く設置すると車椅子の転倒ポイントが悪い方向に変わります。

- 帯域が正しく設定されていることを医療従事者に確認してください。



警告!

バンドをきつく締めすぎると、車椅子の幾何が変わる危険性があります。

- バンドを締めすぎないようにしてください。
- 車椅子を置んだときにのみバンドを締めてください。

3.5.3 バックレストの高さ / バックレストの角度

バックレストの高さと角度は調節可能です。調節は資格を持つ技士が行わなければなりません。



警告

転倒の危険性

追加の荷重 (バックパックまたは同様のもの) を車椅子のバックポストにぶら下げると、車椅子の後方安定性に影響を与える可能性があります。これにより、椅子が後方に傾いて怪我をする可能性があります。

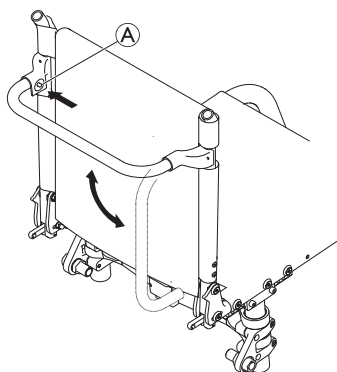
- 車椅子の後部座席に追加の負荷をかけないようにしてください。
- バックポストに追加の荷重をかけて使用する場合は、転倒防止装置の使用を強くお勧めします。

3.5.4 バックレスト用安定化バー

車椅子のバックレストを増強するため、背部の高さと横幅の大きい安定化バーのオプションをご用意しています。

- ！ 警告！**
- 安定化バーを掴んで車椅子を引き上げたり押したりしないでください。折れることがあります。
 - 車椅子をたたむ前に安定化バーを取り外してください。

安定化バーの取り外し



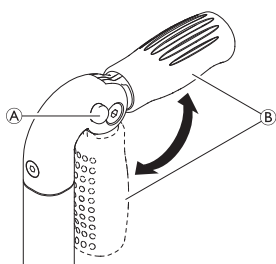
1. 左側の留め具にあるスプリングピン①を押して、安定化バーを下に回転させます。

安定化バーを完全に取り外すには両側のスプリングピンを押します。これにより安定化バーを取り外せるようになります。

3.5.5 ハンドグリップ

- ！ 警告！**
- 車椅子を使用する前に、ハンドグリップがしっかりと固定され、回転したり外れたりしないか必ずご確認ください。

3.5.6 折り畳み式ハンドグリップ

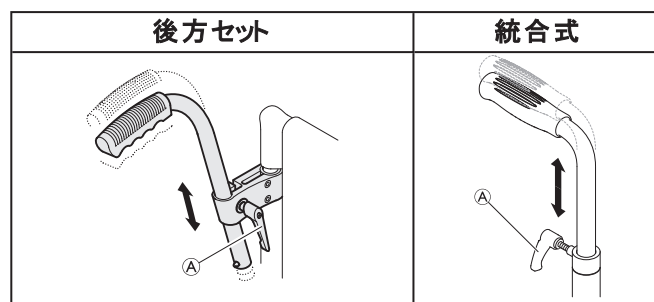


1. ボタン①をしっかり奥まで押してそれぞれを折り畳み、ハンドグリップ②を音がして嵌まるまで押します。

- ！ 注意**
- ハンドグリップがしっかりとハマっていないと、車椅子を押しているときに誤って折り畳まれることがあります。
- ハンドグリップが正しくはまっているかご確認ください。

3.5.7 高さ調節可能なハンドグリップ

無段階式で高さ調整可能なハンドグリップは、介助者に適した高さにハンドルを調節することができます。



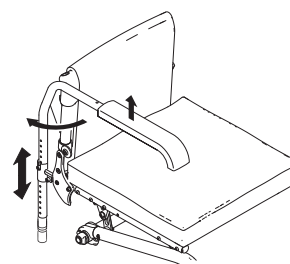
- ！ 警告 怪我の危険性**
- 高さ調節可能なハンドグリップを掴んで車椅子を引っ張らないでください。

3.6 アームレストとサイドの部品

- ！ 警告 怪我の危険性**
- サイドレストは固定されていないため、上方向に簡単に取り外すことができます。
- サイドレストを掴んで車椅子を引き上げたり移動したりしないでください。
 - 車椅子を階段の上または下に運ぶときにサイドレストを輸送に使用しないでください。

- ！ 注意 挟まれる危険性**
- アームレストの取り外し、取り付け、または調節を行う際は、指を可動部品から離してください。

3.6.1 パイプ状アームレスト、ノンロック式、高さ調節可能、取り外し可能、旋回式



取り外し

1. アームレストをホルダーから上方向に持ち上げます。

装着

1. アームレストをホルダーに押し入れます。

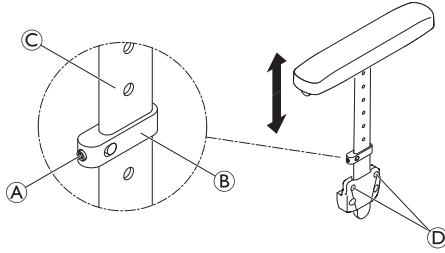
高さ調節

1. アームレストをホルダーから引き上げます。
2. アームレストのパイプにあるネジを緩め、お望みの高さでネジを止め直してください。
3. アームレストをホルダーに押し戻します。
4. この設定を両側に対して行います。

旋回式

1. アームレストを少し持ち上げ、外側に旋回させます。

3.6.2 サイドレスト、無段階式高さ調節可能、ノンロック式



取り外し

1. サイドレストは、アームクッションを持ってホルダーから取り出します。
2. ホルダーからのサイドレストの取り外しやすさ / 取り外しにくさを調整するには、ネジ⑤の締め付け度を変えます。

装着

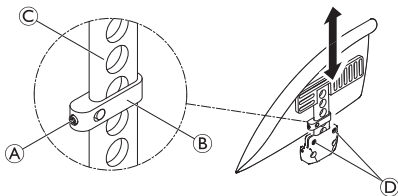
1. サイドレストをホルダーに押し入れます。

高さ調節

1. クランプ部⑥のグラブネジ④を少し緩めます。
2. クランプ部をプロファイル③の上方または下方に動かして、高さを調節します。
3. グラブネジを締め直します。
4. この設定を両側に対して行います。

3.6.3 泥よけ

取り外し可能な泥よけを装着すると、車輪の泥が上方に飛散しないようになります。泥よけの位置は調節可能です。調節は資格を持つ技士が行わなければなりません。



警告

怪我の危険性

泥よけは固定されていないため、上方向に簡単に取り外すことができます。

- 泥よけを掴んで車椅子を引き上げたり移動したりしないでください。
- 車椅子を階段の上または下に運ぶときに泥よけを輸送に使用しないでください。

取り外し

1. 泥よけをホルダーから上方向に引き上げます。
2. ホルダーからの泥よけの離脱の容易さを調整するには、⑤のネジを締める程度を変更します。

装着

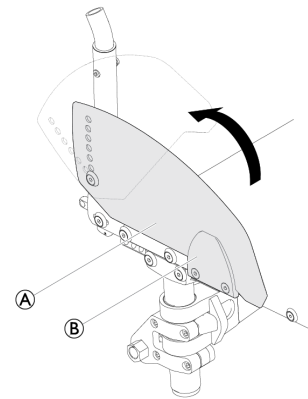
1. 泥よけをホルダーに押し入れます。

高さ調節

1. クランプ部⑥のグラブネジ④を少し緩めます。
2. クランプ部をプロファイル③の上方または下方に動かして、高さを調節します。
3. グラブネジを締め直します。
4. この設定を両側に対して行います。

3.6.4 洋服ガード

洋服ガードを装着すると洋服を保護することができます。車椅子の背部をたたむ前に、まず洋服ガードをバックレストに対して内側にたたみます。

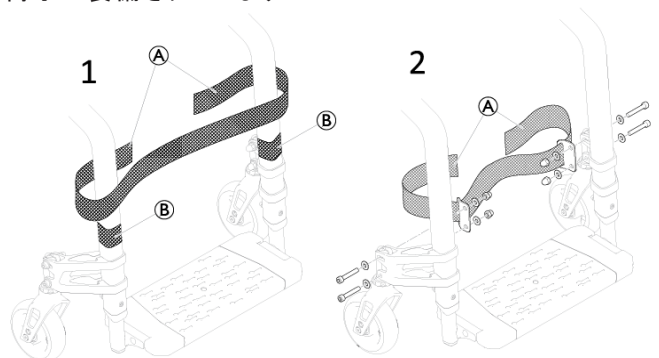


内側への折りたたみ

1. 衣服ガード④の前側を持ち上げてホルダー⑤から外し、背もたれ前方のジョイント③を中心に内側へ回転させます。

3.7 カーフストラップ

使用者の足の位置をより良くするために、カーフストラップが車椅子に装備されています。



カーフストラップの装着 / 調節

1. カーフストラップ④を、左右のフレーム部品 (1) のフック・ループ式の留め具⑤に取り付け、調節します。



カーフストラップは、資格を持つ技士によりキャスターサポートに装着することもできます (2)。

3.8シートクッション

着座シートにかかる圧力分布を均一にするために適切なクッションが必要です。



注意 不安定性の危険性

座シートにクッションを乗せると地面からの高さが増し、全方向に対する安定性に影響することがあります。クッションを変えると使用者の安定性も変わります。

- クッションの厚みが変わった場合は、資格を持つ技士による車椅子のフル設定が必要となります。
- 滑りを防ぐために、滑り止めベースカバー付きのInvacareまたはMatrixクッションの使用をお勧めします。



シートクッションが滑り落ちないようにするには、滑り止め敷きパッドやフック締めテープの付いたシートクッションをご利用ください。ループ締めテープがシートカバーに予め装備されています。

4オプション

4.1転倒防止装置

転倒防止装置は、車椅子が後方に転倒することを防ぎます。



警告 転倒の危険性

転倒防止装置が正しく調整されていない、または正常に作動しないと、転倒のおそれがあります。

- 車椅子を使用する前に、転倒防止装置が正常に作動していることを必ず確認してください。車椅子を使用する前に、転倒防止装置が正常に作動していることを必ず確認してください。必要に応じて、資格を持つ技士による調整または再調整を受けてください。
- 一部の構成では、車椅子の静的安定性が10°を下回る場合があります。Invacareは転倒防止装置(オプション)の使用を強く推奨します。



警告 転倒の危険性

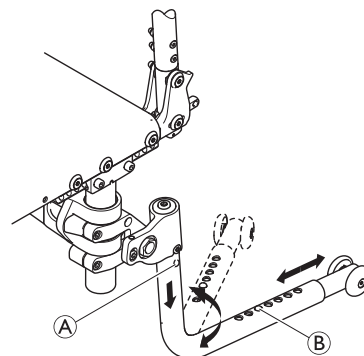
水平でない地面や柔らかい地面では、転倒防止装置がくぼみにはまったり地面に直に食い込んだりすることがあり、安全機能が損なわれたり失われたりします。

- 転倒防止装置は、平坦で固い地面を走行するときにのみ使用してください。



警告！ 損傷の危険性

- 杖ホルダーを踏みつけたり、転倒補助として使用したりしないでください。



転倒防止装置を動作する状態にする

1. 転倒防止装置をバネに対して完全に下方向へ押し下げ、所定の位置に固定されるまで90°内側へ回転させます。



警告 転倒の危険性

車椅子に格納式の転倒防止装置が取り付けられている場合は、使用者の安全のため、常に使用位置にしておく必要があります。

- 転倒防止装置が使用位置では通過できない障害物を乗り越えるため、一時的に転倒防止装置を無効にすることができます。
- 転倒防止装置が作動しない状態で、使用者を車椅子に一人残さないでください。

転倒防止装置を作動しない状態にする

1. 転倒防止装置を完全に下方へ押し下げ(ばね式)、前方の位置で所定の位置に固定されるまで180°回転させます。

長さの設定

1. 転倒防止装置のスプリングピン®を押し、内側部分を必要な位置まで押し込みます。スプリングピンが最も近い穴に入るようにします。

転倒防止装置の取り外し

1. リリースボタン®Aを押し、転倒防止装置のパイプを下方へ引き抜きます。

4.2姿勢ベルト

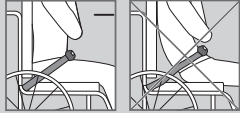
車椅子には姿勢ベルトを装着することができます。このベルトは、使用者が車椅子の下方に滑ったり、車椅子から落下するのを防ぎます。姿勢ベルトは、姿勢維持装置ではありません。



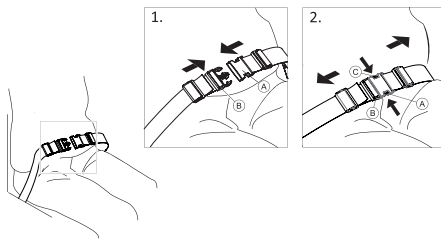
警告 重傷 / 窒息の危険性

ベルトが緩むと使用者が滑り落ちて窒息する危険があります。

- 姿勢ベルトの取り付けは認定を受けた技士が行い、調節は医療専門家が行ってください。
- 姿勢ベルトが骨盤の下部にきつく取り付けられていることを必ず確認してください。
- 姿勢ベルトを使用する際には毎回、正しく取り付けられていることを確認してください。シートやバックレストの角度、およびクッションの変更や、着ている衣類が、ベルトの装着状態に影響します。



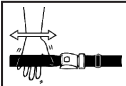
姿勢ベルトの開閉



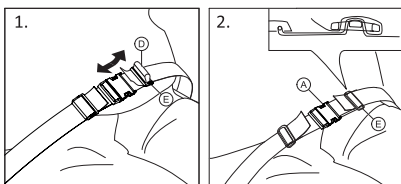
着座シートにかかる圧力分布を均一にするために適切なクッションが必要です。

1. 閉めるには、キャッチ (A) ベルト通し (B) に押し付けます。
2. 開くには、ボタン (C) を押し、キャッチ (A) をベルト通し (B) から引き出します。

長さの調節



身体とベルトの間にちょうど手のひらが入るスペースがあると、姿勢ベルトの長さは十分です。

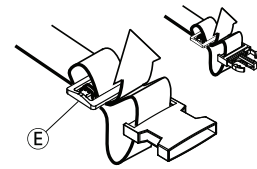


1. 必要に応じて、ループ (D) の長さを調節します。
2. ループ (D) をキャッチ (A) とプラスチック製ベルト通し (E) に通し、ループが平らになるまで引きます。
3. ループ (D) がプラスチック製ベルト通し (E) に完全に装着されていることを確認します。
4. ストラップの端をベルト通し (E) に取り付けて、確実に調整します。



警告 滑落および窒息する危険があります / 落下する危険があります

- ベルト通しが中央になるよう、両側を均等に調節してください。
- ベルトが緩まないように、ストラップの両端がベルト通し (E) に2回ねじ込まれていることを確認してください。
- ベルトが後輪のスポークに巻き込まれないよう確認してください。



4.3 配置ベルト使用時のアタッチメント



注意 すべり落ちる危険性

- ベルトは体にしっかりと密着させる必要があります。
- ある種類のシートクッションの高さに合うようベルトの長さが調節された場合、このクッションを使用することが重要です。シートクッションを取り替えた場合、ベルトの長さを調節する必要があります。



車椅子に適用される規格に適合していることを示す CE マークが貼付された車椅子に、同じく CE マークが貼付された配置ベルトを取り付けます。配置ベルトの調節は医療専門家が行い、取り付けは認定を受けた技士が行ってください。



配置ベルトを使用する目的は、使用者の位置を調整して、姿勢を改善することです。

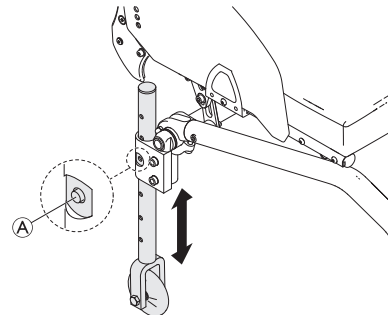
4.4 移動用車輪

電車や飛行機、狭い通路、狭いドアなどで使う際に車椅子の幅が広すぎる場合は、移動用車輪を使うことができます。



警告 大事故の危険性

移動用車輪を使用するとパーキングブレーキの効果なくなり、ハンドリムで車椅子を操作できなくなります。



移動用車輪への切り替え

1. 移動用車輪を操作位置まで下げます。そのためには、パイプを引き下げられるようになるまでピン (A) を内側に押しします。
2. 2つ目のピンを押します。
3. ピンが小さい穴にはまるまでパイプをさらに下方向に押しします。
4. 車椅子をサポートとして使用できる固定されたもの (ドア枠、重いテーブル) まで移動し、片手で固定されたものをしっかりと掴みます。
5. 反対側の後輪が床から持ち上がるまで車椅子を傾けます。



後輪を取り外す前に、引き下げられた移動用車輪と床との間の距離を 2 cm 未満にします。

6. 後輪を取り外します。→ 7.3 後輪の取り外しと取り付け

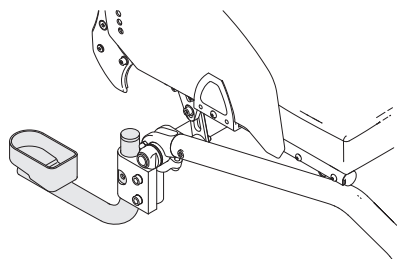
け、17ページ

7. もう一方についてもこの手順を繰り返します。

移動用車輪から後輪への切り替え

1. 車椅子をサポートとして使用できる固定されたものまで移動し、片手で固定されたものをしっかりと掴みます。
2. 反対側の移動用車輪が床から少し持ち上がるまで車椅子を傾けます。
3. 後輪を取り外し可能な車軸に取り付け直します。→ 7.3 後輪の取り外しと取り付け、17ページ
4. 移動用車輪を再度無効な位置まで持っていきます。
5. もう一方についてもこの手順を繰り返します。

4.5 杖ホルダー



警告 転倒の危険性

- 杖ホルダーが後輪の外径の外に突き出ないようにしてください。



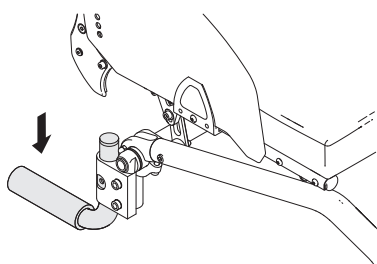
警告！ 損傷の危険性

- 杖ホルダーを踏みつけたり、転倒補助として使用したりしないでください。

1. 杖をホルダーに入れます。
2. 杖の上部をバックレストに固定します

4.6 ティツパーエイド

ティツパーエイドを使うと、階段などで介助者がより楽に車椅子を傾けられるようになります。



警告 転倒の危険性

- ティツパーエイドが後輪の外径の外に突き出ないようにしてください。

1. 車椅子を手でグリップで支えます。
2. ティツパーエイドを足で押し、障害物を通り越すまで車椅子を傾け続けます。

4.7 サスペンション



警告 怪我の危険性

- サスペンションを取り付けた場合、車椅子の重心が変わり、後ろへの転倒の危険性が高くなります。
 - 泥よけを正しく調節し、泥よけと後輪の間に指を挟まないようにします。必要に応じて、資格を持つ技士に連絡してください。
 - サスペンションの設定を絶対に変更しないでください。調節は、必ず資格を持つ技士に依頼してください。

4.8 パンプ照明

反射板を後輪に取り付けることができます。

5 セットアップ

5.1 安全性について



注意 怪我の危険性

- 車椅子を使用する前に、「8.2 点検整備作業、17ページ」を参照して、全体の状態および主な機能を確認してください。

担当のプロバイダーが、車椅子を使用可能な状態でお渡しします。担当のプロバイダーが主な機能について説明し、ニーズおよび要求を満たす車椅子であることを保証します。

軸の位置およびキャスターのサポートの調節は、資格を持つ技士が行う必要があります。

6 車椅子の使い方

6.1 安全性について



警告 事故の危険性

- タイヤの空気圧が均一でないと、操作に大きく影響します。
 - 走行前は必ずタイヤの空気圧をご確認ください。



警告 車椅子から転がり出る危険性

- 小さすぎる前輪を使うと、車椅子が縁石や床の溝にはまってしまい、動けなくなることがあります。
 - 前輪のサイズが運転する面に対して適切であるかご確認ください。



注意 指が挟まれる危険性

- 後輪と泥よけまたはアームパッドの間にとても狭い溝ができており、指が挟まれる危険性があります。
 - 車椅子は、常にハンドリムのみを使用して操作してください。

盗難および金属探知システム

まれに車椅子の材質に盗難および金属探知システムが反応することがあります。

6.2使用中にブレーキをかける

走行中は、手で力をハンドリムに移行させてブレーキをかけます。



警告

事故の危険性

移動中にパーキングブレーキをかけると動作方向をコントロールできなくなり、車椅子が急に停止して衝突したり使用者が転がり出してしまうことがあります。

- 移動中のパーキングブレーキの使用は絶対におやめください。



警告

車椅子から転がり出る危険性

介助者がハンドグリップを引いて車椅子のスピードが急激に落ちた場合、使用者が車椅子から転がり出してしまうことがあります。

- 姿勢ベルトがあれば常に着用してください。
- 介助者が使用者を乗せた車椅子を移動する能力を持つことを確認してください。
- 車椅子のステアリングを完璧にコントロールすべく、ブレーキ2つを同時に操作し、7°を超える勾配は避けてください。
- 短時間または長時間の停車時には、必ず駐車ブレーキを使用して車椅子を固定してください。



注意

手の火傷の危険性

ブレーキを長時間かけていると、ハンドリムにたくさんの摩擦熱が発生します (特に滑り止めハンドリム)。

- 適切な手袋をはめてください。

1. ハンドリムを握り、車椅子が停止するまで均等に押しします。

6.3車椅子の乗り降り



警告

転倒の危険性

乗り移りの際に転倒する危険性が高いです。

- 介助なしでの乗り降りには、介助なしでも体力的問題のない方のみが行ってください。
- 乗り移る際には、できるだけ深く座シートに腰掛けてください。これによりクッションの破損や車椅子の前方への転倒を防ぎます。
- キャスターが両方ともまっすぐ前方を向いているかご確認ください。



警告

転倒の危険性

フットレストに体重をかけると、車椅子が前方に転倒するおそれがあります。

- 車椅子に乗るとき、降りるときには、フットレストに体重をかけないでください。



注意

バックレストに重いものをぶら下げると、車椅子の重心が変わります。

- 運転スタイルを重心に応じて変えてください。



注意

ブレーキを解除したりブレーキが壊れたりすると、車椅子の走行を止められなくなることがあります。

- 車椅子に乗るとき、降りるときには、ブレーキに体重をかけないようにしてください。



警告!

タイヤガードやアームレストが壊れることがあります。

- 車椅子に乗るとき、降りるときには、タイヤガードやアームレストに腰掛けないでください。



1. 車椅子から椅子に移乗するときには、車椅子をできるだけ椅子に近づけます。
2. パーキングブレーキを有効にします。
3. アームレストを外すか、邪魔にならないように上に向けます。
4. レッグレストを外すか、外側に向けます。
5. 足で地面を踏みます。
6. 車椅子を掴み、必要であれば近くにある固定されたものを掴みます。
7. 椅子にゆっくり移動します。

6.4車椅子の運転と方向転換

車椅子の運転と方向転換はハンドリムで行います。介助なしで運転する前に、車椅子の転倒ポイントを探します。



警告

転倒の危険性

車椅子は前方に転倒することがあります。

- 転倒ポイントを探す際には、介助者が車椅子の真後ろに立ち、転倒したら抑えられるようにしてください。
- 転倒を防ぐため、転倒防止装置を装着します。



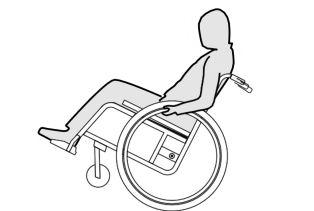
警告

転倒の危険性

車椅子は前方に転倒することがあります。

- 車椅子を設置する際には、前方への転倒について動作をテストし、これに応じて運転スタイルを調節してください。

転倒ポイントを探す



1. ブレーキを解除します。
2. 後方に少し走らせ、両方のハンドリムをしっかりと掴み、軽くキックして前方に押し上げます。
3. 重さが移動し、向きがハンドリムの反対方向に変わること、で、転倒ポイントがわかります。

6.5 階段や段差の昇降



警告

転倒の危険性

階段昇降のときにバランスを失って車椅子が転倒することがあります。

- 階段や段差の昇り降りは必ずゆっくりと慎重に行ってください。
- 高さが25 cmを超える階段は昇り降りしないでください。



注意

転倒防止装置を作動する状態にすると、車椅子が後方に転倒することを防ぎます。

- 階段や段差を昇り降りする前には、転倒防止装置を作動しない状態にしてください。



警告

介助者のけが怪我や製品への損傷の危険性

体重の重い使用者を乗せた状態で車椅子を傾斜させると、介助者の背中や車椅子を損傷する可能性があります。

- 傾斜操作を行う前に、体重の重い使用者を乗せた車椅子を安全に操作できることを確認してください。

介護者と階段を降りましょう。



1. 車椅子を段差の真上に移動してハンドリムを持ちます。
2. 介助者は両方のハンドグリップを握り、片足をティツパーエイドに乗せ(装着されている場合)、車椅子を後方に傾けます。これにより、車椅子の前輪が地面から持ち上げられます。
3. 次に、車椅子をこの位置に留めたまま押して階段を慎重に降り、前輪が地面に着くまで前方に傾けます。

介護者と階段を上りましょう。



警告

重傷の危険性

段差や縁石を通常の使用頻度より多く登ると、車椅子の背もたれが疲労破壊を起こし、車椅子から転落する場合があります。

- 傾斜操作を行う前に、使用者または介助者が車椅子を制御できることを確認してください。

1. 後輪が段差に触れるまで車椅子を後方に動かします。
2. 介護者は、両方のハンドグリップを握って車椅子を傾けながら前輪を地面から持ち上げ、次に前輪が地面に着くまで後輪を段差の上に引き上げます。

介護者なしで階段を降りましょう。



警告

転倒の危険性

介助者なしで段差を降りる際に、車椅子を制御できないと、転倒する可能性があります。

- まず、介護者なしで階段を下りる方法を身につけましょう。
- 後輪でバランスをとりながら、転倒しかける位置を見つける方法を把握してください(6.4 車椅子の運転と方向転換、14ページ)。

1. 車椅子を段差の真上に移動し、前輪を持ち上げて車椅子のバランスをとります。
2. この状態で、両方の後輪で段差の上をゆっくりと通ります。この間、前輪が地面に着くまで両手でハンドリムをしっかりと持ちます。

6.6 階段昇降



警告

転倒の危険性

階段昇降のときにバランスを失って車椅子が転倒することがあります。

- 1段以上の階段の昇り降りは、必ず2名の介助者で行うようにしてください。



1. 上図に示すように、階段を1段ずつ昇り降りすることができます。最初の介助者は車椅子の後ろに立ち、ハンドグリップを握みます。二人目の介助者は前方のフレームの固定部分を持ち、前から車椅子を安定させます。

6.7 斜面や坂道の昇り降り



警告

車椅子のコントロール不能状態による危険性

坂道や勾配を車椅子で昇り降りすると、車椅子が後方、前方、または横に転倒する可能性があります。

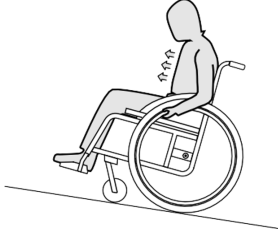
- 長い坂道に差ししかかったときは、必ず介助者が車椅子の後ろにいるようにしてください。
- 横に傾いた坂道は避けてください。
- 角度が7度以上の坂道は避けてください。
- 坂道で方向転換するときは、急に押したり引いたりしないでください。

**注意**

傾斜の緩い坂道でも、ハンドリムでコントロールしないと車椅子が暴走する可能性があります。
 — 車椅子を傾斜地に停車するときには、パーキングブレーキを使用してください。

坂道を昇るとき

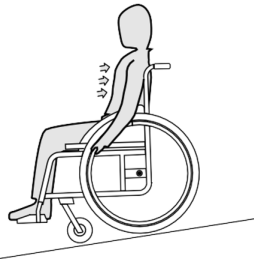
坂道を昇るときはある程度の勢いをつけて、その勢いを保ちながら同時に方向を制御する必要があります。



1. 上半身を前かがみにし、両方のハンドリムを素早く、力強く動かして車椅子を進めます。

坂道を降りるとき

坂道を降りるときは、方向と、特にスピードをコントロールすることが重要です。



1. 後ろにもたれ、ハンドリムが両手を通るのを気をつけて見守ります。いつでもハンドリムを握って車椅子を停止できる状態にしておきます。

**注意****手の火傷の危険性**

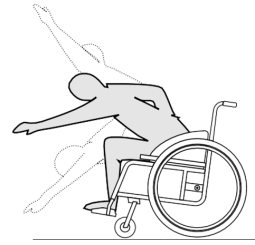
ブレーキを長時間かけていると、ハンドリムにたくさんの摩擦熱が発生します。
 — 適切な手袋をはめてください。

6.8座ったときの安定性とバランス

日常活動や行動によっては、車椅子から前かがみになったり、横や後ろに傾く必要があります。これにより、車椅子の安定性が大きな影響を受けます。常にバランスを保つためには次のように行動してください。

前かがみになるとき**警告****転倒の危険性**

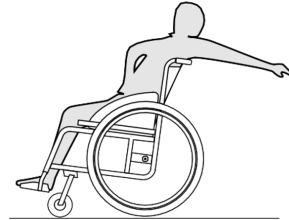
車椅子に乗りながら前かがみになると、車椅子から転がり出るおそれがあります。
 — 前にかがみすぎないようにしてください。また、ものを取ろうとして前方に移動しないでください。
 — 床からものを拾う場合に、膝の間に前かがみにならないでください。



1. 車椅子の前輪を前向きにします。(前輪を前向きにするには車椅子を前方に少し動かし、また戻します。)
2. 両方のパーキングブレーキをかけます。
3. 前かがみになるときは、上半身が前輪上に留まるようにしなければなりません。

後ろに傾くとき**警告****転倒の危険性**

後ろに傾きすぎると、車椅子が転倒するおそれがあります。
 — バックレストの外側に身を乗り出さないようにしてください。
 — 転倒防止装置を使用してください。



1. 車椅子の前輪を前向きにします。(前輪を前向きにするには車椅子を前方に少し動かし、また戻します。)
2. パーキングブレーキをかけないでください。
3. 後ろに傾くときは、座位を変えなければならないほど傾かないようにしてください。

6.9利用者が乗っていない場合の手動車椅子の輸送**注意****手の火傷の危険性**

ブレーキを長時間かけていると、ハンドリムにたくさんの摩擦熱が発生します(特に滑り止めハンドリム)。
 — 適切な手袋をはめてください。

手動車椅子の輸送にあたっては、車両、鉄道、航空機のいずれでも制限がない場合があります。しかし、各輸送企業には特定の輸送手段を規制または禁止する可能性があるガイドラインがあります。各個人的なケースについて輸送企業に相談してください。

- Invacare は、輸送用車両の床に手動車椅子を固定することを強くお勧めします。

7 輸送 (移動)

7.1 安全性について



警告

車椅子が正しく固定されていない場合の怪我の危険性

事故が発生したり、ブレーキ操作を行ったりした場合、車椅子の部品が飛散し、重傷を負うおそれがあります。

- 車椅子を輸送する際には、必ず後輪を外してください。
- 輸送中に緩むのを防ぐため、車椅子のすべての部品を輸送手段に応じた方法できちんと固定してください。
- 車両や飛行機で使用者を乗せていない車椅子を輸送する場合、折り畳まれて固定されていることを確認してください。



警告!

過度の摩耗や擦り傷は、耐荷重部品の強度に影響することがあります。

- 車輪を固定せずに研磨面で車椅子を引っ張らないでください(タールマックの上でフレームを引っ張るなど)。

7.2 バックレストの折りたたみ方と広げ方

バックレストの折りたたみ方

1. シートクッションがあれば外します。
2. 洋服ガードがあれば少し持ち上げてから、両側のバックレストに対して内側にたたみます。
3. 車椅子の背部のコードをはまるまで引っ張って、バックレストを前方にたたみます。
4. これでバックレストバーを掴んで車椅子を引き上げることができます。

バックレストの広げ方



警告!

- 車椅子を広げるときは、先にコードを使用してバックレストを解除してから、バックレストのバンドを引くようにしてください。
- 再び車椅子を使用する前に、バックレストがフレームにしっかりとハマっていることを確認してください。

1. 車椅子のバックレストにあるコードを引っ張ります。
2. バックレストのバンドを掴んでバックレストを後方に引っ張って、バックレストパイプがフレームの両側ではまるようにします。
3. 洋服ガードを両側の位置にたたみます。

7.3 後輪の取り外しと取り付け

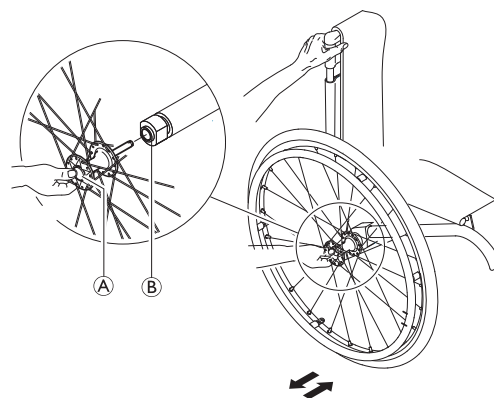


警告

転倒の危険性

後輪の取り外し可能な車軸がしっかりとハマっていないと、車輪が使用中に緩まることがあります。これにより転倒する可能性があります。

- 車輪を装着するときには、取り外し可能な車軸がしっかりとハマっていることを必ずご確認ください。



後輪の取り外し

1. 車輪ロックを解除します。
2. 片手で上向きに車椅子を支えます。
3. もう一方の手で、車輪ハブの周りの外部スポークリムから車輪を支えます。
4. 親指で、取り外し可能な車軸ボタン(A)を押します。車軸ボタンを押したまま、アダプタースリーブ(B)から車輪を引き抜きます。

後輪の取り付け

1. 車輪ロックを解除します。
2. 片手で上向きに車椅子を支えます。
3. もう一方の手で、車輪ハブの周りの外部スポークリムから車輪を支えます。
4. 親指で、取り外し可能な車軸ボタン(A)を押します。車軸ボタンを押したまま、アダプタースリーブ(B)から車輪を引き抜きます。
5. アダプタースリーブ(B)に止まるまで、車軸を押し込みます。
6. 取り外し可能な車軸ボタンをリリースし、車輪がしっかりと装着されたことをご確認ください。

8 点検整備

8.1 安全性について



警告

素材によっては、時間と共に自然に劣化します。それによって車椅子部品の損傷に繋がる可能性があります。

- 車椅子は少なくとも年に1回、また長期間使用されていなかった場合には、資格を持つ技士による点検が必要です。

8.2 点検整備作業

安全で信頼できる操作を可能にするには、以下に示す目視確認と点検整備を定期的に行うか、または他の人に依頼してください。

	週ごと	毎月	年1回
タイヤ空気圧の確認	x		
後輪が正しい位置にあるか確認	x		
バックレスト接合部の調節の確認	x		
姿勢ベルトの確認	x		
目視確認		x	

折り畳み機構の確認		x	
キャスターとその固定状態を確認してください		x	
ボルトの確認		x	
スポークの確認		x	
パーキングブレーキ(機構とケーブル)を確認		x	
認定を受けた技士による車椅子の確認			x

タイヤ空気圧の確認

1. タイヤの空気圧をご確認ください(詳しくは「タイヤ」章を参照)。
2. 所要圧力になるまでタイヤに空気を入れます。
3. 同時にタイヤトレッドも確認します。
4. 必要であればタイヤを交換します。

後輪が正しい位置にあるか確認

1. 後輪を引っ張り、取り外し可能な車軸が正しい位置にあるか確認します。引っ張っても車輪が外れるべきではありません。
2. 後輪がしっかりとまはっていない場合は汚れや溜まったものを取り除きます。問題が解決しない場合は、認定を受けた技士に取り外し可能な車軸を装着し直してもらいます。

バックレスト接合部の調節の確認

1. 車椅子に座り、バックレストに寄りかかってください。バックレストが正しくかみ合っている必要があります。
2. リリースコードを引っ張ります。ピンは両側に自由に動かなければなりません。これらが確認できなかった場合は、担当のプロバイダーがバックレスト接合部を再調節する必要があります。

姿勢ベルトの確認

1. 姿勢ベルトが正しく調節されていることを確認します。

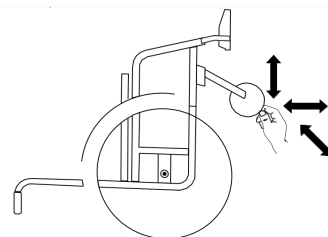
- ！ 警告！**
- 緩んだ姿勢ベルトは、指定プロバイダーが調節しなければなりません。
 - 損傷した姿勢ベルトは、認定を受けた技士が交換します。

全体的な目視確認

1. 車椅子に緩んだ部品、亀裂、その他の欠陥がないかを確認します。
2. 問題が見つかったら、車椅子の使用を直ちに中止し、指定プロバイダーへ連絡してください。

キャスターとその固定状態を確認してください

1. キャスターがスムーズに動くことを確認します。
2. 3方向(前後・左右・上下)に押し引きして、ガタつきや動きがないことを確認し、外観上の損傷がないことも確認してください。



3. 汚れや髪の毛があればキャスターベアリングから取り除きます。
4. 故障や摩耗したキャスターは、認定を受けた技士が交換する必要があります。

ボルトの確認

ボルトは常時使用することにより緩むことがあります。

1. (フットレスト、シートカバー、サイド、バックレスト、フレーム、シートモジュールの) ボルトがきちんと締まっていることを確認します。
2. 緩んでいるボルトを適切なトルクで締めてください。そのため、インターネット www.kuschall.com で入手できるサービスマニュアルを参照してください。

- ！ 警告！**
- 緩み止め機構付きネジ・ナットや緩み止め接着剤が接続部のいくつかで使用されています。これらを緩めた場合は、新しい緩み止め機構付きネジ・ナットに交換するか、または新しい緩み止め接着剤を使って固定しなければなりません。
- 緩み止め機構付きネジ・ナットは、認定を受けた技士が交換する必要があります。

スポークの張り具合の確認

1. スポークに緩みや歪みがあってはなりません。
2. 破損したスポークは認定を受けた技士が交換しなければなりません。
3. 緩んだスポークは認定を受けた技士が締めなければなりません。

パーキングブレーキの確認

1. パーキングブレーキの位置が正しいことを確認します。ブレーキをかけたときにタイヤがブレーキシューによって数ミリへこめば、ブレーキは正しく設置されています。
2. 正しく設置されていない場合は、ブレーキを正しく調節するよう、認定を受けた技士に依頼してください。

- ！ 警告！**
- 後輪を交換したり位置調節した後は、パーキングブレーキを再調整しなければなりません。

激しい衝突や打撃を受けた後の確認

- ！ 警告！**
- 車椅子は、激しい衝突や打撃によって生じる目に見えない損傷を負っていることがあります。
- 激しい衝突や打撃を受けた後は、必ず認定を受けた技士が車椅子を確認するようにしてください。

タイヤチューブの修理および交換

1. 後輪を取してタイヤチューブの空気を抜きます。
2. 自転車タイヤレバーを使ってタイヤのサイドウォールの一方をリムから持ち上げます。ドライバーなどの鋭利なものは、タイヤチューブが損傷する原因となりますので使用しないでください。
3. タイヤチューブをタイヤから引き出します。
4. タイヤチューブを自転車修理キットで修理するか、または必要であればチューブを交換します。
5. チューブが丸くなるまで少し空気を入れます。
6. バルブをリムのバルブ穴に挿入し、タイヤの内部にチューブを入れます(チューブはひだができないようにタイヤ周囲に沿って位置します)。
7. タイヤのサイドウォールをリムの端から持ち上げます。バルブ付近から始め、自転車タイヤレバーを使用します。このとき全体を確認し、タイヤチューブがタイヤとリムの間に挟まらないようにします。
8. 最大使用圧力になるまでタイヤに空気を入れます。タイヤから空気が漏れていないか確認します。



予備部品

いずれの予備部品も、Invacare指定のプロバイダーが提供できる場合があります。

8.3清掃と除菌

8.3.1安全性全般について



注意

汚染の危険性

身を守るために注意を払い、適切な防護具をご使用ください。



警告!

不正な液体や方法を使うと製品に危害が及んだり製品が損傷することがあります。いずれの洗剤や消毒剤も、効果的で相互に互換性があり、清掃する材質を保護するものでなければなりません。

- 腐食性液体(アルカリ、酸など)や研磨剤配合洗剤は絶対に使用しないでください。清掃の説明に特に記載がない場合は、食器用洗剤など通常の家庭用洗剤をお勧めします。
- プラスチックの構造を変化させたり貼り付けられているラベルを溶かすような溶剤(セルロースシンナー、アセトンなど)は絶対に使用しないでください。
- この製品を再び使用する前に、完全に乾いているか必ずご確認ください。



臨床現場や長期療養環境における清掃および消毒については、当該施設の手順に従ってください。

8.3.2清掃の頻度



警告!

定期的に清掃および除菌をすることで操作が円滑になり、耐用年数が延び、汚染を防ぎます。

- 製品の清掃と除菌:
- 使用中は定期的に、
- 点検や修理を行う前後、
- 体液が付着したとき、
- 新しい使用者が使用する前。

8.3.3清掃



警告!

- この製品は、高圧洗浄装置や蒸気を使用した自動洗浄システムでの洗浄には対応していません。



警告!

泥、砂、海水はベアリングおよび鋼鉄製の部品を損傷します。表面が損傷すると、錆が発生することがあります。

- 車椅子を砂や海水にさらすのは短時間にとどめ、海岸に行った後は毎回洗浄してください。
- 車椅子が汚れたらできるだけすぐに湿らせた布で汚れを拭き取り、慎重に乾燥させます。

1. 取り付けられているオプション(取り付けに道具が必要でないもの)をすべて取り外してください。
2. それぞれの部品を布または柔らかいブラシ、通常の家庭用洗剤(pH = 6 ~ 8)、ぬるま湯を使って拭きます。
3. ぬるま湯で部品をすすぐ
4. 乾いた布で部品をしっかりと乾かします。



塗装された金属表面には自動車ワックスやソフトワックスを使い、擦り傷を取り除き光沢を取り戻します。

クッションの洗浄

クッションの洗浄については、座シート、クッション、バックレストカバーのラベルに記載されている説明をご覧ください。



可能なら洗浄時にはフック・ループ式のストラップ(セルフグリップの部分)を覆い、糸くずや糸がフック式のベルトに溜まること、またそれによるクッション生地への損傷を最小限に抑えてください。

8.3.4除菌

試験を受けて認証された除菌剤を噴霧して拭くことで、車椅子の除菌を行えます。



ソフト洗浄で除菌洗浄剤

(EN1040 / EN1276 / EN1650の基準に適合する殺菌剤)を噴霧して、製造元の指示に従ってください。

1. 手の届く表面全体を柔らかい布と通常の家庭用除菌剤でくまなく拭きます。
2. その後車椅子を空気乾燥させます。

9トラブルシューティング

9.1安全性について

日常的な使用、調節、または車椅子の需要の変化により故障することがあります。故障の確認と修理のしかたについては次の表をご覧ください。資格を持つ技士が行わなければならない内容もあります。該当するものにはその旨が記載されています。すべての調整は、資格のある技士が行うことをお勧めします。



注意

– 操作性の著しい変化やその他の故障に気がいたら、直ちに車椅子の使用をやめ、プロバイダーまでご連絡ください。

9.2故障の確認と修理

故障	考えられる原因	措置
車椅子がまっすぐに走行しない	どちらかの後輪タイヤの空気圧が適切でない	タイヤの空気圧を適正にする → タイヤの空気圧を適正にする → 11.2 タイヤ、23ページ
	スポークが1本以上折れている	損傷しているスポークを交換する → 資格を持つ技士
	スポークが均等に締められていない	緩んだスポークを締める → 資格を持つ技士
	キャスターサポートが正しく配置されていない	キャスターサポートを正しい位置・配置に修正する → 資格を持つ技士
	キャスターベアリングが汚れている、または損傷している	ベアリングを清掃する、またはキャスターを交換する → 資格を持つ技士
	後輪が軌道を外れている	軌道を変更する → 資格を持つ技士
	キャスターが同じ高さに調節されていない	キャスターが同時に床につくよう位置を直す → 資格を持つ技士
車椅子が後方に倒れやすい	後輪が装着された位置が前すぎる	後輪をより後方に装着する → 資格を持つ技士
	背部の角度が大きすぎる	バックレストの角度を小さくする → 資格を持つ技士
取り外し可能な車軸を正しく挿入できない	取り外し可能な車軸が汚れている	取り外し可能な車軸を清掃する
	取り外し可能な車軸の位置合わせが正しくない	取り外し可能な車軸を調節する → 資格を持つ技士
パーキングブレーキの握りが不良または非対称的である	どちらかまたは両方の後輪タイヤの空気圧が適切でない	タイヤの空気圧を適正にする → タイヤの空気圧を適正にする → 11.2 タイヤ、23ページ
	ブレーキの設定が適切でない	ブレーキの設定を修正する → 資格を持つ技士
転がり抵抗がとても高い	後輪タイヤの空気圧が低すぎる	タイヤの空気圧を適正にする → タイヤの空気圧を適正にする → 11.2 タイヤ、23ページ
	タイヤがパンクしている	
	後輪が平行でない	後輪が平行になるよう調整する → 資格を持つ技士
スピードを出すとキャスターがぐらつく	キャスターベアリングブロックの張り具合が弱い	ベアリングブロック軸のナットを少し締める → 資格を持つ技士
	キャスターがすり減ってつるつるしている	キャスターを交換する → 資格を持つ技士
キャスターが固いまたは動かない	ベアリングが汚れている、または故障している	ベアリングを清掃または交換する → 資格を持つ技士
バックレストを折り畳みにくい	バックレストカバーがきつく張りすぎている	バックレストカバーのフックとループストラップを少し緩める → タイヤの空気圧を適正にする → 11.2 タイヤ、23ページ

10車椅子の処分 / 回収

10.1保管

！ 警告！ 製品の損傷の危険性

- 本製品を熱源の近くに保管しないでください。
- 車椅子の上に他の物を保管しないでください。
- 車椅子は、屋内の乾燥した場所に保管してください。
- 温度制限については、セクション「11.4 環境状態、23ページ」を参照してください。

車椅子を長期間(4か月以上)保管した場合は、セクション「8.2 点検整備作業、17ページ」に従って車椅子を点検する必要があります。

10.2再調整

この製品は再使用に適しています。新しい使用者のためにこの製品を再調整するには、以下を行います。

- 点検
- 清掃と除菌
- 新しい使用者への適用

詳しくは、8.2 点検整備作業、17ページと本製品のサービスマニュアルをご覧ください。

この製品とともに取扱説明書を必ず手渡してください。

何らかの損傷や誤動作が見つかった場合は、この製品を再使用しないでください。

10.3廃棄

環境に配慮するため、本製品が製品寿命を終えた場合には、リサイクル施設を通じてリサイクルしてください。

製品と構成部品を分解してください。さまざまな素材は分離できるため、個別にリサイクルできます。

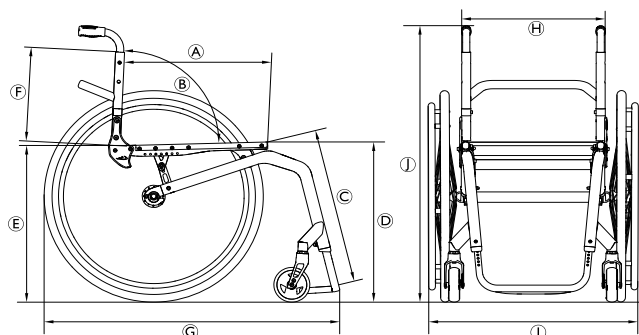
使用済みの製品や梱包材を廃棄およびリサイクルする際は、各国の廃棄物処分に関する法律や規制に従う必要があります。詳しくは、お近くの廃棄物処理会社までお問い合わせください。

11技術資料

11.1寸法および重量

すべての寸法および重量の仕様は、標準設定の様々な車椅子に当てはまります。寸法および重量 (ISO 7176-1/5/7 に基づく) は、設定によって異なる可能性があります。一部の構成では、全体的な寸法が車椅子の推奨寸法を超える場合があります。

- #### ！ 警告！
- 一部の構成では、使用できる状態時の全体的な寸法が認定された限界を超え、緊急脱出ルートへのアクセスができないことがあります。
 - 一部の構成では、車椅子がEU圏内で電車移動する際の推奨寸法を超える場合があります。



	車椅子の最大荷重(*)	130 kg 100 kg(サスペンションオプション装着時)
④	シート奥行	350 ~ 525 mm、25 mm刻み
⑤	バックレストの角度	74°/78°/82°/86°/90°/94°
⑥	レッグ下部の長さ	290 ~ 480 mm、10 mm刻み
⑦	座シート前部から床までの高さ	450 ~ 520 mm、10 mm刻み
⑧	座シート後部から床までの高さ	390 ~ 490 mm、10 mm刻み
⑨	バックレスト高	270 ~ 480 mm、15 mm刻み
⑩	レッグレストを入れた全長	75°フレーム角度 : 約 830 mm 90°フレーム角度 : 約 760 mm
⑪	シート幅	320 ~ 500 mm、20 mm刻み
⑫	全幅	約 490 ~ 805 mm
⑬	全高	約 650 ~ 1200 mm
	折りたたみ時の高さ	約 600 ~ 710 mm
	総重量	約 7.9 kg
	最も重い部品の重量	5.3 kg
	ピボット幅	1240 mm
	最小回転半径	700 mm
	最大安全斜面	7°
	下り坂での静的安定性	20°
	上り坂での静的安定性	7°
	横向きの静的安定性	20°
	シート面角度	0° - 20°
	足とシート表面の角度	55° - 115°
	アームレストから座シートまでの距離	120 ~ 280 mm
	アームレスト構造の位置 (前)	220 ~ 330 mm
	ハンドリム直径	520 ~ 580 mm
	軸の位置 (水平方向)	約 -20 ~ +140 mm

(※) 車椅子の最大積載荷重は、最大乗員質量と、車椅子で運搬することを目的とするその他の物品の最大質量の合計です。

最大乗員質量は、追加荷重を含まない車椅子の最大荷重です。

例 : 10 kg のバックパックを取り付けた車椅子の場合 :

最大乗員質量 = 車椅子の最大荷重 = 10 kg

11.2 タイヤ

理想的な圧力はタイヤの種類によって異なります:

タイヤ	直径	最大圧力		
プロファイルタイヤ	610 mm (24")	7 bar	700 kPa	101 psi
その他のタイヤ	610 mm (24インチ) 635 mm (25インチ) 660 mm (26")	10 bar	1000 kPa	145 psi

-  上記のタイヤの互換性は、車椅子の構成およびモデル、またはそのどちらかによって異なります。
-  タイヤがパンクした際は、自転車修理店、自転車店などの適切な店舗に相談し、熟練した作業員にチューブの交換を依頼してください。
-  タイヤのサイズは、タイヤの側面に記載されています。適切なタイヤへのタイヤ交換は、資格を持つ技士が行わなければなりません。



注意

- 走行の快適さを保ち、ブレーキの効率と車椅子の容易な推進力を維持するため、タイヤ空気圧を両方の車輪で均等にする必要があります。

11.3 材質

フレームパイプ	アルミニウム / 炭素繊維
バックレストパイプ	アルミニウム / チタニウム
折り畳み機構	アルミニウム
シートカバー / バックレストカバー	PA / PE / PVC
ハンドグリップ	アルミニウム / TPE
洋服ガード / 泥よけ	炭素繊維またはプラスチック
キャスターフォーク	アルミニウム
フットレストパイプ	アルミニウム / チタニウム
フットプレート	炭素繊維またはプラスチック
補助部品 / 取付部品	スチール / アルミニウム
ネジ、ワッシャー、ナット	スチール

-  すべての材質は腐食を防止するために使用されています。弊社は REACH に準拠する素材と構成部品のみを使用しています。
-  盗難および金属検出システム: 車椅子に使用されている材料が盗難および金属検出システムを作動させることは、ほとんどありません。

11.4 環境状態

	保管と輸送	使用
温度	-20 °C ~ 40 °C	
相対湿度	30 °C で 20 % ~ 90 %。結露のないこと	
大気圧	800 hPa ~ 1060 hPa	

-  車椅子を低温下で保管する場合は、使用前に調整する必要があることに注意してください。「8 点検整備、17 ページ」を参照してください。

**EU Export:**

Invacare Poirier SAS

Route de St Roch

F-37230 Fondettes

Phone: (33) (0) 2 47 62 69 80

serviceclient_export@invacare.com

www.invacare.eu.com



Invacare UK Operations Limited
Unit 4, Pencoed Technology Park,
Pencoed
Bridgend CF35 5AQ
UK



Invacare France Operations SAS
Route de St Roch
F-37230
Fondettes
France

